



くぬぎ通信



2019年7月発行 第341号
市原第7団ボーイ隊長 土橋一弘
2019年7月度テーマ ; 我らを照らせよ

我らを照らせよ ; 「♪煙は舞うよ(P81)」から

♪ララララ・・・
煙はまうよ みそら高くに けむる松葉は 野営の宝よ
小枝はさきに 幹はあとに けむるは野営の かがりの常よ
太い丸太は 野営の椅子に やがて立つ日は 朝げの薪よ
もやせよたけよ、こよいのために 歌がわくように、我らを照らせよ

隊集会のキャンプ。班サイトにて立ちかまどで薪を燃やして調理しているイメージ。
または、夜のボンファイヤーで暖かい炎の光にあたりながらも、煙に巻かれているイメージ(^_^)かな。スカウトのみんなはどんなイメージを想像しますか。
木々の命から熱・光をいただいて、美味しい料理やホッとする場・賑わいの場が造られるところ。薪となる木々を大切に使うって楽しいスカウティングができるといいですね。

「自分で学ぶ」

ビーバー隊、カブ隊を経験し、ボーイ隊になった君たちには、リーダーから全てを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、自ら学ぶことを理解してほしい。それはなぜなのか、ベーデン・パウエルは自分で学ぶことについて、「地理の学び方」を事例に以下の様に記している。

「ケニアはどこに？」

アフリカの場所を知らない人はそういないだろう。だが、ケニアの場所を知らない人が多いのには驚かされる。アフリカの地図を見て見つけてほしい。友人からは「息子さんの近くに住めていいですね」と言われたが、息子の住むのはジンバブエでケニアから2000kmも離れてるのだ。また、大きな学校の校長から私宛の手紙の住所には「南アフリカ国ケニア」と書いてきたが、南アフリカとケニアは3200kmも離れてる。

これらのエピソードからの教訓は、教わることをあてにしてはいけないということ。教わるのは「役に立つ知識の学び方」であり、自分の力で学び続けた人間は人生で成功するということだ。

※「自分の力ヌーは自分で漕げ」から要約。

8月の隊活動予定

- テーマ ; 理想の峰
- 活動目標 ; ・野外活動により、大自然を知る。
・愛と感謝する心を養う。
- プログラム ; キャンプ
- ソング ; 平和の騎士
- 当番班 ; ハヤブサ班、バッファロー班

日時	場所	集会	内容
7/30	姉崎公民館	班長会議、班長訓練	夏季キャンプ 概要
未定	未定	班集会	
8/9or3,4	団野営場	班集会	資材積み込み
8/10~13	団野営場	隊集会	夏季キャンプ

アーバンハイキング (都内地上テレビ全局制覇) 6月度 隊活動

開会セレモニーで歌ったソング「♪あるけ：空は青いぞ、すみわたり・・・」とはちょっと違うの天気(途中雨降り)になりましたが、スカウトたちは歩く歩く、道を間違えても突き進み、台場～汐留～六本木～赤坂～永田町～半蔵門～渋谷の18kmを踏破し、全TV局(8④⑤⑦⑥⑨①②)を制覇しました。
ベンチャースカウトの宮下くんと中谷くんにも参加いただき、二人がいなければ実施できなかったプログラム。ありがとう。

日本テレビ(大時計)前

23区内最高峰(愛宕山)の階段前

